

## 平成29年度ひまわりパークつばみ事業報告

平成29年度は、施設外就労先として予定していた「福岡市動物園」と「福岡市こども総合相談センター」での清掃業務が、共に受託できなかったことにより就労継続支援A型事業（定員15人）を休止しました。また、自立訓練（生活訓練）事業においても前年度末在籍者3人（定員6人）の内、有期限の利用者が2人おり他1人の利用者も他事業所との並行利用で週2日の利用でした。更に、平成29年度に向けての新規利用者がいなかったため、事業を休止しました。

上記のことから、平成29年度は就労継続支援B型事業のみの運営となり、介護給付費等の算定に係る定員規模が、21人以上40人以下から20人以下となり、多機能型の特例が適用できなくなりました。

ついては、同事業の定員が14人から20人と変更となりました。年度当初は、定員20人に対して15人の利用者のご利用されていましたが、年度途中において他事業所への転園等が3人あり、年度末時点では12人の利用者が通所されています。

なお、施設の老朽化に伴う事業所の移転は喫緊の課題ですが、現利用者が通えるなど条件に見合う物件がなく、また事業運営の収支も考慮し苦慮しているところです。

利用者の状況や各種の事業活動は次のとおりです。

### 1 利用者の状況

平成30年3月31日現在

項 目	内 容
実利用人員／定員	12人／20人
男女別	男 8人・女 4人
平均年齢	39.9歳（男 44.5歳・女 30.8歳）

### 2 事業別の利用者数及び職員数

平成30年3月31日現在（単位；人）

事業名	定員	利用者数			支援員数
		男性	女性	合計	
就労継続A型	休止	—	—	—	—
就労継続B型	20	8	4	12	4
自立訓練(生活)	休止	—	—	—	—
合計	20	8	4	12	4

備考 上記の職員のほか管理者1人、サービス管理責任者1人を配置。

### 3 主な事業の取り組み

#### (1) 就労継続支援A型事業

平成29年度は、施設外就労先として予定していた「福岡市動物園」及び「福岡市こども総合相談センター」の清掃業務を、当法人（事業所）では受託ができなかったため、就労継続支援A型事業を休止するという大変残念な結果となりました。

なお、去る3月16日に行われました平成30年度の「福岡市動物園」清掃業務委託の見積合わせでは、当法人（事業所）が落札しましたので次年度からは再開することとなりました。

#### (2) 就労継続支援B型事業

利用者が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、就労する機会の提供とともに、作業を通して知識や働く意識等の向上に向けて支援等を行いました。

生産活動は、従来どおりのお菓子の箱折りが中心でしたが、利用者一人ひとりの状況や特性に応じて作業を行いました。箱折り作業は、1月・2月は閑散時期のため、灯明づくりやつぼみボンボンなどの手作り小物類の製作などにも取り組みましたが、今年度は、例年より箱折り作業の切れ目が少なかったようです。

新規の作業では、育成会で5月から共同受注した西部ガスの特例子会社（NPO 法人絆結）様からのチラシの封入・封緘作業があり、他の作業と重なったり、初めての仕事のため要領が得ないこともあって当初の予定数より完成品は減りましたが、8月末に納品することができました。他には、毎年作業依頼がきている中央区役所（子育て支援課）様からのオレンジリボン（こども虐待防止）や城南高校卒業生の会報誌の封入・封緘作業を行いました。

なお、同B型では施設外就労として博多区にある主に外国人向けの簡易宿泊施設の清掃作業に週4日（日・月・水・木）出向き、ベッドメイキングやシャワー室、トイレ等の清掃をしています。また、同宿泊施設のオーナー所有の中央区にあるアパートにも月2回清掃作業に従事しています。この施設外就労の作業代金が同B型事業の安定的な収入の確保にも繋がっています。

また、今年度も作業ボランティアの皆さんが繁忙期を中心に年間を通して協力いただき、作業の支援とともに休憩時の利用者との会話など和やかな職場づくりに貢献していただきました。

なお、平成30年度からの報酬改定では、平均工賃額に応じた基本報酬単価の設定となり、各事業所の更なる工賃向上が求められています。当法人内でも平成28年8月から就労継続支援B型事業所では、作業開拓・工賃向上検討委員会を設置し、工賃向上に向けた取り組みを行っておりますが（平成29年度月額平均工賃額；10,328円（前年度平均工賃より828円増））、当事業所としても福岡県工賃レベル（平成28年度；13,539円）で進

めていくことを目的とし、今後とも工賃向上に向けて取り組んで参ります。

### (3) 自立訓練(生活訓練)事業

同事業については、平成25年度から事業を開始していましたが、平成29年度においては、利用者の期間満了及び新たな利用者の希望者が全くいなかったため、平成29年度は運営が困難なため一年間の休止届けを福岡市に提出していました。その間、再開に向けて先進的な事業を行っている事業所に見学に行きました。また、支援学校等にもご案内し利用者の獲得も試みましたが、保護者の見学はあったものの結果的には希望者が全くいなかったため、再開が困難となりました。

つきましては、次年度以降の再開の目処が全くなく事業の運営が困難なため、今年度末をもって事業を廃止することとなりました。

### (4) 施設行事

昨年度は、施設外での行事を行っていませんでした。日常は生産活動が主ですが利用者間の交流を図るため、季節に応じた行事を行いました。主な内容は、クリスマス会や初詣、豆まき、花見等のほかに保護者会に参加を呼びかけ、一緒に調理教室や新年交流会、バスハイク（ヤクルト工場見学）等を行い、楽しいひとときを過ごすことができました。

なお、今年度は障がい者スポーツ大会には雨のため参加ができなかったため、利用者の参加競技でもありましたフライングディスク大会を近隣の公園で行いました。

### (5) 余暇支援

余暇支援は休日を充実し、また体験することで生活の質の向上を図る目的で実施しました。利用者からの意見等を参考にして参加しやすい活動を取り入れ、またボランティアの応援を受け、年間11回延べ61人の参加がありました。

今年度も、定番のカラオケやボウリング、調理体験は3回実施しました。他には福岡タワーに上ったり、ももち界隈の自然や風を感じながら普段とは異なる福岡の街並みを味わうことができました。

今後とも、利用者等のニーズを踏まえ生活の向上につながる企画に取り組んで参ります。

### (6) 安全対策

災害や事故等不測の事態に対し、できる限り適切な対応ができるように、事業所において地震・火災発生への避難訓練を、年2回実施しました。

特に、福岡市防災センターに出掛け、地震体験や強風体験、火災体験、消火訓練等を行い、災害の模擬体験を通して、もしものときの防災に関する知

識や対処法などを身につけ学ぶことができました。また、北朝鮮の情勢を鑑み、本市に弾道ミサイルが飛来した場合に備え、緊急速報メールを活用したミサイル対応訓練を実施しました。

#### (7) 健康支援

毎月の血圧・脈拍等のチェックや手洗い・うがい等の励行によって日常の健康管理に努めるほか、結核予防のレントゲン検査を集団で受診し、結核予防に取り組みました。

また、40歳以上の利用者を対象に糖尿病などの生活習慣病を予防するための「よかドック（特定健診）」を地域の医療機関で受診しました。

なお、個別に必要な利用者には健康観察記録表を作成し、出勤時に計測や聞き取り、記録を行い必要な利用者には保護者等にその旨連絡し、健康管理に努めました。

#### (8) 苦情解決

利用者との契約時に当事業所のサービスに関する相談や苦情について相談窓口や解決窓口等の説明を行うとともに、日頃からの利用者、保護者等からの相談に対して事業所として課題の共有や改善に努めてきました。

今年度は、施設等に関する苦情はございませんでした。今後ともより相談しやすい窓口等に向けて職員一同取り組んで参ります。

#### (9) 職員研修の取り組みと実習生の積極的な受け入れ

利用者・保護者からの信頼確保や支援の充実には職員一人ひとりの質の向上がますます重要となっています。そのため法人内の基本的研修や虐待防止に関する研修に積極的に取り組んできました。このほか、福岡県社会福祉協議会、あるいは市・区役所等が主催する担当業務に応じた専門研修などに参加しました。

また、今年度は大学生の実習生(介護等体験)を、6人延べ30日間の受入れを行いました。実習生への指導が職員自身にとっても学びの機会となり職員の質の向上にもつながったと思われます。

### 4 地域交流

#### (1) 定期的な地域清掃への取り組み

毎月計画的に地域清掃日を設け、利用者と一緒に自主的に事業所周辺のゴミ拾いや空き缶拾いなどの清掃活動を実施し、地域の美化環境に取り組ましました。

#### (2) 小学校等との交流

地域の小学校において障がい者の就労や日常生活を学ぶ学習のため、当事業

所に小学4年生10人が2回来所され、作業見学及び利用者との意見交換を行いました。また、学校に出向き利用者の仕事や活動などの講話を行い、障がいの理解啓発に努めました。小学生の熱心な学習によって当事業所利用者の生産活動等の理解につながったと思われます。今後とも、地域との交流を図るため小学校等との交流は積極的に取り組んでいく必要があると考えます。また、近隣にある短期大学（社会福祉学科）の学生を随時受入し、利用者と一緒に作業を行い作業体験等を通して利用者（障がい者）とのコミュニケーション能力を身につけていただいています。

## 5 高齢化対策

利用者及び保護者の高齢化等もありグループホームに対する関心が高いことから、障がい者の高齢化問題は重要な課題です。

なお、同法人内の平成29年6月開設の高齢知的障がい者を対象としたグループホームに、当事業所から2人の利用者が入居しました。また、関係機関と連携し2人の利用者がグループホームの体験入所をしました。

今後とも、親亡き後の暮らしの場の体験や、成年後見制度等の啓発に取り組んで参ります。